

# 原子力安全部会 企画セッション フォローアップセミナー 実効的なオブソレッセンスマネジメントに向けた論点の抽出

- 日時：7月24日（水） 13時30分～16時20分
- 司会：名大・山本章夫
- 話題提供：
  - 国際的な事例分析：東大・村上健太
  - 知識のオブソレッセンスに関する課題への対応：ATENA安全性向上評価WG（電源開発）・小川真吾
  - 規制の視点から見たオブソレッセンス：規制庁・黒川陽一郎
- 総合討論

# フォローアップセミナーの目的

- 原子力プラントのライフサイクルを通じて安全性を向上させるには、オブソレッセンスマネジメントが不可欠である。
- オブソレッセンスは、経年劣化管理、長期運転、品質マネジメントシステム等の、多様な文脈で使われる専門用語である。その意味に関する共通の理解を構築するため、昨年から活動してきた。
- FUセミナーでは企画セッションの講演を振り返ると共に、学術及び実務の両面から議論を更に深める。
- 特に具体的な取り組みが難しい知識のオブソレッセンスに着目する。

# 講演の概要

1. 国際的な事例分析：東大・村上健太
  - 一般的な（原子力だけでない）オブソレッセンスマネジメントの事例を紹介し、その分類と文脈を示す。
  - それを踏まえて、原子力のオブソレッセンスの分類の意味を説明する。
  - 国際的な良好事例&懸念となる事例を紹介する
2. 知識のオブソレッセンスに関する課題への対応：ATENA安全性向上評価WG（電源開発）・小川真吾
  - 建設経験や検査経験に関する知識の伝承と更新
  - コンフィギュレーション管理や、計画初期段階からの設備の変更
  - 新しい安全評価手法の取り込み
3. 規制の視点から見たオブソレッセンス：規制庁・黒川陽一郎
  - オブソレッセンスに関する規制委での議論の経緯を紹介する
  - 4つの対応（バックフィット、長期施設管理計画、安全性向上評価、欠けへの対応）を紹介する

## 総合討論の論点：

# 知識のオブソレッセンスを効果的にマネジメントする方法は？

- 「知識のオブソレッセンス」という語は抽象度の高い課題に対する、具体的な取り組みの方向性は？
- ハードウェアの設計思想や、協力企業のノウハウなど、形式知化しにくい知識の重要性は理解されているが「知識伝承が重要」で終わらせない工夫は？
  - ✓ コンフィギュレーション管理を軸にした取り組み（FUセミナーで報告）
  - ✓ リスク評価で得られた知見の緊急時の手順への反映（企画セッションで報告）
- ✓ 外的事象が主要なリスク源である日本では、オブソレッセンスへの取り組みにも独自性が求められるのでは？
  - ✓ 現在の枠組みでも、見落としてしまう領域はないか？
  - ✓ 規格や規制のオブソレッセンス対策のところでは、対応すべき点が多いのでは？
  - ✓ 新たな知識を生み出す能力（研究開発を含む）が、低下しているのでは？